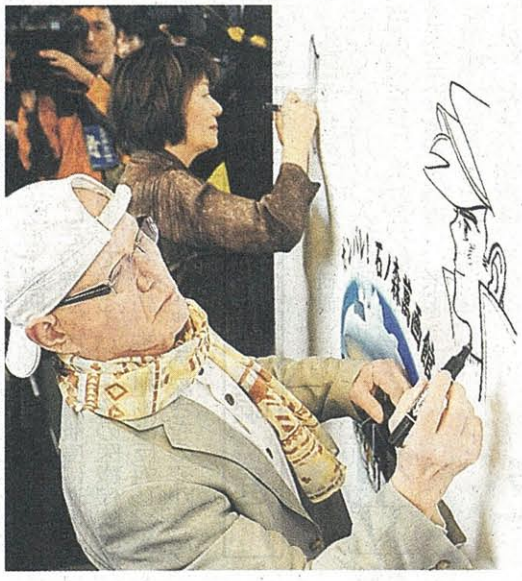

東日本大震災復興の願いを込めてペンを握るちばてつやさん（手前）と里中満智子さん＝米子市末広町、米子コンベンションセンター

漫画家400人米子に集結

国際マンガサミット開幕

漫画を生かした地域活性化の可能性を探る「第13回国際マンガサミット鳥取大会」（同大会実行委員会主催）が7日、米子市内で開幕した。国内をはじめとする東アジアの漫画家ら約400人が集結。11日まで5日間、作品や制作風景を紹介するほか、漫画を切り口に地域経済効果、食文化について活発に討論する。

（16、23面に関連記事）

米子コンベンションセンター（同市末広町）でのオープニングセレモニーには約300人が出席。サミットを誘致した鳥取県の平井伸治知事が「漫画、アニメなどのポップカルチャーを通じて世界が一つになることを願う」、大会実行委員長の漫画家ちばてつやさんが「漫画で国際交流を深め、サミットを楽しみましょう」と成功を誓った。

セレモニーの後、大会の主要催事「まんが王国とっとりフェスタ」が同センターで開幕。漫画家の仕事を見学できる「公開アトリエ」や、国内外の漫画家346人の作品655点を集めた「マンガサミット作品展」に大勢が詰め掛けた。

東日本大震災で被災した石ノ森萬画館（宮城県石巻市）の応援コーナーも設けられ、ちばさんと漫画家の里中満智子さんが、萬画館へ贈る白いボードに絵やメッセージをつづった。

同日夜には、8日に公開シンポジウムが予定されている「国際会議」の開会式が市内であり、会議に参加する約200人の漫画家が親睦を深めた。

サミットは「サミット常任理事国」の日本など3カ国2地域の持ち回りで不定期に開かれ、国内開催は4度目。鳥取県は県内全域で「国際まんが博」（8月4日～11月25日）を展開しており、サミットを目玉行事の一つと位置付けている。